

新たな展開と今後に向けて

理事長 有馬真喜子



私たちは、今、これまでで一番大きい、と言っても過言でないような、変革の時を迎えています。

ご承知の通り、いま私たちはUN Women本部との間で「承認協定」についての交渉を進めていますが、「承認協定」

についての説明で、本部は「これは単にユニフェムから名前を変えることではない」と言い切り、国連は「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」という重要な世界的課題について、やり方を変えたのであり、1国に1組織のみ承認されるナショナル・コミティは、国連のガバナンスの下、活力と大胆さをもって、パートナーとしての役割を果たしてほしいと言っています。具体的には、3年間の活動計画の提出、国連統一基準会計、サブ・コミティ（協力協定団体）に至るまで国連の定めるガイドラインを確実に守る、などが求められています。

なかなかたいへんだなあ、と思います。しかし同時に、私たちも、こうしたチャレンジに呼応して、自らを変革する時だとも考えます。それは、UN Women自身が、世界の政治や経済や科学や文化や地域等における女性の役割の変化に着目して、自らの役割の拡充と決意を新たにしているのであり、日本においても事情は同じだからです。日本政府は、国内でも国際社会でも女性はもっと活躍を、と大きく旗を振っています。

すでにお知らせした通り、私たち自身の改革を具体化する手始めとして、長年使いなれた「国内委員会」の名称を「国連ウィメン日本協会」に改めることにしました。私たちの組織が、日本において国連が主導する女性課題を実現するための唯一の組織であることを明確にし、分かりやすく、親しみやすく知っていただくためです。

具体的には国連ウィメン日本協会は、いま、WEPs（女性のエンパワーメント原則）の普及を中心とする、女性の経済的エンパワーメント活動、女性に対する暴力を根絶する活動などに力を入れています。2013年12月には、内閣府、経済同友会と共催でWEPs関連のシンポジウムを開きました。11月には、日本政府の招聘で来日した「紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表」の活動に協力しました。6月には、第5回アフリカ開発会議においてJICAなどと協力し、女性の活躍の公式サイドイベントを行いました。現在進行中の、紛争解決や平和構築に女性の参画を求める国連安保理決議1325号の国内行動計画策定にも参加しています。

さて、組織はユニフェムとは違う、と言っても、私たちの活動の主たる目的が開発途上国の女性支援であることに変わりはありません。そのために私たちは多くの方々に呼びかけ、関心を喚起し、寄付を集め、途上国の女性や子供の基本的生存権を確保し、少しでも安全で豊かになるための活動を続けてまいります。

これまでと一緒に活動してくださっている会員、賛助会員、協力協定団体みなさま、変革に向き合いつつ、今後とも一緒に歩みを進めてまいりましょう。

国連ウィメン日本協会へ

副理事長 岩田喜美枝

私たちNPOは、2011年1月、国連がユニフェムを含む女性関係の4つの組織を統一しUN Womenとしたことに伴い、「UN Women日本国内委員会」と改称して活動を続けてまいりましたが、このたび「国連ウィメン日本協会」と名称を変更することとしました。そのため、2013年8月に開催されたUN Women日本国内委員会の総会での議決を踏まえ神奈川県に対して定款の変更を申請しておりましたところ、2013年11月26日付で変更が承認されました。

名称変更の理由は、「UN」が「国連」を示すことが日本ではわかりづらいこと、横書きの名称は新聞等に掲載しづらいこと、活動する団体としては「委員会」よりも「協会」のほうがふさわしいこと、等です。

今後は、市民の皆様により分かりやすい名称で活動することにより、UN Womenのプログラムを支援するための募金活動を強化することはもちろんのこと、UN Womenの理念や活動内容の広報に一層力を入れ国内問題の解決にもさらに貢献していきたいと思っております。

「構成委員会」から「協力協定団体」へ

副理事長 三隅佳子

定款の変更により、現「構成委員会」の呼称を「協力協定団体」と改正し、国連ウィメン日本協会と協力協定書を締結し、活動を行うことになりました。(下記変更のポイントです)

1. 改正の理由について

- ・ UN Womenと承認協定を締結する国連ウィメン日本協会の協力団体の呼称に委員会を用いるのは混乱を招く。
- ・ 承認協定の「Sub-Committees」の位置づけより、自主的に活動するパートナーとしての位置づけを重視した。
- ・ 単なる協力団体ではないことを明確にした。従って、国連ウィメン日本協会

を冠した名称、ロゴが使用できる。

- ・ 地域、企業、学校等の組織の多様化に対応できる。

2. 名称の表記について

- ・ 日本語名称・・・国連ウィメン日本協会〇〇
- ・ 英文名称・・・〇〇 Sub-Committee of Japan National Committee for UN Women

3. ロゴについて

国連ウィメン日本協会のロゴの下に〇〇 Sub-Committeeと表記(日本協会が作成)

ムランボ-ヌクカ新事務局長が就任しました!

理事 三輪敦子

バチエ前事務局長の後任として、南アフリカ出身のプムジレ・ムランボ-ヌクカ氏が事務局長に就任しました。

ムランボ-ヌクカ氏は国立レソト大学の教育学部を卒業後、アパルトヘイト下で厳しい状況におかれていた子どもたちへの教育に携わり、世界YWCA(ジュネーブ)の女性支援コーディネーターとして、教育、健康、環境、平和等の分野における女性支援に成果を上げました。

1994年に、アパルトヘイト廃止後の最初の民主議会の議員に選出され、公務・行政委員会の議長として人種・性差別のない公共



プムジレ・ムランボ-ヌクカUN Women事務局長

サービスの実現に尽力しました。ネルソン・マンデラ氏に指名されて1996年に貿易産業

副大臣(～1999年)に就任して以降、鉱物エネルギー大臣(1999～2005年)、そして女性初となる南アフリカ共和国副大統領(2005～2008年)を歴任しました。

9月12日に記者会見に臨んだムランボ-ヌクカ氏は、国連ウィメンの事務局長として、特に女性の経済的エンパワーメント、貧困撲滅、科学技術を活用した教育に力を傾けたいとの抱負を語りました。

2015年に期限が迫ったミレニアム開発目標後の開発課題の策定にあたっては、ジェン

ダー平等に焦点を絞った目標の設定を目指すと同時に、すべての目標におけるジェンダー主流化を図ることを明言しました。さらに、北京行動綱領が20年の節目を迎えるにあたり、資金調達を含め、行動綱領実現を加速するための戦略強化に取り組んでいくとの決意を明らかにしています。

ムランボ-ヌクカ氏のリーダーシップの下、国連ウィメンが世界の女性のエンパワーメントに一層効果を上げるよう、日本協会としても力を尽くしていきます。

イタリア国内委員会主催

「UN Women National Committees グローバル会合」報告

理事 目黒依子

例年開催されるNC (National Committees) グローバル会合が2013年9月9日～11日にローマの欧州議会インフォメーション事務所兼欧州委員会イタリア代表部のSpazio Europaで開かれ、17NCが参加。日本NC(「国連ウィメン日本協会」)から目黒が参加した。

公式開会式には、ローマ市長、欧州議会イタリア代表部、欧州委員会イタリア代表部、元外務大臣、国会議員が出席し、UN Womenの意義やそれぞれの活動についてスピーチ。現外務大臣は急用のため手紙参加。

○報告・討議内容：

- ・UN Women 本部の活動(特に募金、WEPsを含むPSパートナーシップについて)に関し、出張者ミツシ・ダス及び対プライベート・セクター連携部長キャロリン・ハーディーによる報告
- ・メディア・コミュニケーション、ジェンダー平等基金、女性暴力信託基金、国連内調整機関としてのUN Women、アドボカシー・政府へのロビーに関するSkypeによる本部からの情報提供&意見交換
- ・承認協定について、ダス及びハーディー部長による現状説明とNCとの意見交換及びSkypeによるNY本部との意見交換
- ・NCの報告：
 - ①英「役員会マネージメントについて」
 - ②米「支部マネージメントについて」
- ・2014年グローバル会合開催国は日本に決定。2015年の開催国としてノルウェーが立候補し、承認された

○承認協定署名状況と今後の進め方：

- ・新しくNCとなったフランスのみ7月に署名済み

- ・6月～8月に7NCよりコメント・提案等が提出され、現在調整中

- ・本部の意向は、承認協定の形態は各国共通のものとしたいが、個別の問題については丁寧な意見交換をする用意があること、個別課題の条項についてはレターを作成し承認協定本文に添付することとなった。

今次会合での説明資料は後日extra netに載せる予定

○NC日本の活動について：

アドボカシーのセッションで、2012～2013年の日本NCの活動のうち特に①2年連続WEPsシンポジウムを主要財界と共催したこと、②UN Women制作DVDの3テーマ「災害と暴力」「紛争とジェンダー(安保理決議1325号)」「ジェンダー予算」の日本語版を日本の女性団体による助成金で作成・配布、③アドボカシー向上のためのNC日本語名称の変更を進めたこと、を報告した。

ミツシから「これらは本部とNC、日本政府とNC、市民社会(財界、NGO、メディア)とNCとの素晴らしい連携ぶりを示すもの」と絶賛され、参加者から大拍手を受けた。



ローマに集合した各国NCの代表者たち

シンポジウム

「女性はもっと活躍できる!～WEPsが変える仕事の未来」開催報告

副理事長 渡邊 皓子

2013年2月に開催したWEPsシンポジウムの第2弾として、12月16日(月)、女性就業支援センターで、内閣府、男女共同参画連携会議、公益財団法人経済同友会と協働で主催し、約200名の参加のもと、「女性はもっと活躍できる!WEPsが変える仕事の未来」と題してシンポジウムを開催しました。WEPs(女性のエンパワーメント原則)はUN Womenとグローバル・コンパクトが共同で作成したものであり、女性の活躍推進のためにCEOが署名するよう世界的に呼びかけています。

第一部は、オーストラリア連邦政府性差別担当コミッショナーのエリザベス・プロデリック氏を講師にお迎えし、「男性リーダーと共にジェンダー平等を」のテーマで基調講演(同時通訳付)をしていただきました。オーストラリアのジェンダー平等の推進状況を数値で示し説明され、組織や人的資源・財源を掌握している男性が男女平等の大切さを認識し、他の男性にも考えを伝えることが有効であり、そのために「変革のための男性チャンピオン(MCC)」という24名のグループを結成したという体験を話されました。また、国防軍における女性待遇の見直しのためのチームのリーダーとして、軍の現場を回り、軍の意識改革に取り組んだ経験を話されました。たいへんパワフルな講演で示唆に富んだ内容でした。



エリザベス・プロデリック氏基調講演

第二部は、「企業と仕事の未来～WEPsが日本企業を変える!」をテーマに、(株)クロスカンパニー代表取締役社長の石川康晴氏、芝浦工業大学学長補佐・大学院工学マネジメント研究科教授、元(株)リコーITソリューションズ会長執行役員の國井秀子氏、(株)コラボラ

ボ代表取締役の横田響子氏にご登壇いただき、国連WEPsリーダーズグループメンバーでもある、当会の岩田喜美枝副理事長をコーディネーターとして、パネルディスカッションを行いました。WEPsの7つの原則を中心に、パネリストそれぞれの取り組み事例が報告されました。石川氏からは、社内に女性エンパワーメント委員会・女性登用促進のため女性人事委員会を設置された経緯等が話され、國井氏からは、男性だけでなく女性にも教育に力を入れた取り組み、研修等をおこなうことの大切さ、横田氏からは、女性企業家と大手企業が集まるイベントを企画しており、企業が女性企業家に仕事を発注することを推進していきたいと話されました。3氏からは、企業トップのコミットメントと持続的な取り組みとその検証の大切さの重要性が共通の意見でした。



パネルディスカッション風景

シンポジウム終了後の交流会では、参加者とパネリストの方がたとの今後に向けての「つながる場」になったのではと思います。

最後に、プロデリック氏の招聘に関しましては、オーストラリア大使館の多大なご協力がありましたことに感謝申し上げます。

WEPsの7原則

- | |
|-----------------------------|
| 1. トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進 |
| 2. 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃 |
| 3. 健康、安全、暴力の撤廃 |
| 4. 教育と研修 |
| 5. 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動 |
| 6. 地域におけるリーダーシップと参画 |
| 7. 透明性、成果の測定、報告 |

UN Women 佐賀

7月13日(土)・14日(日)、佐賀県国際交流フェスタ2013。うだるような暑さの中、佐賀城の外で開催されたフェスティバルに参加しました。天幕の中にパネルを展示し、参加者に冷茶とお菓子を出して、UN WomenをPRしました。

11月16日(土)、女性への暴力をなくす国際デーキャンペーン。昨年に続けて、「カレとワタシのアンナこと、コンナこと」を語り合いました。大熊良成産婦人科医師と野口光代医大教授のトークでは、性暴力について、データをもとにわかりやすく説明していただきました。今回は若い学生や教員、医師など、様々な人が集まりました。継続は力なり、地道な活動を続け、学び合い、共感し合う大切さを実感しました。

12月19日(月)、吉澤須満さんと椿憲一さんによるシャンソンのチャリティ・コンサートを開催しました。ちょっとお洒落な大人の一刻が好評でした。

事務局長 徳久榮子



UN Women 北九州

UN Women北九州の一大イベントは、“ムーブフェスタ”の期間中に行うチャリティ事業です。“ムーブフェスタ”は、本会事務局のある北九州市立男女共同参画センター・ムーブが、毎年開館した7月に行う記念事業で、多くの方が来館されます。

2013年は恒例の「チャリティバザー」と“ベアテの贈りもの”講演と映画のつどいを開催しました。まず7月20日(土)にバザーをムーブ1階の交流広場で行いました。毎年のことですが、多くの皆さんにご参加いただき、大盛況のうちに終了いたしました。続いて、7月27日(土)には、講演と映画のつどいを行いました。まず、占領下の女性政策が研究のテーマである、上村千賀子・群馬大学名誉教授に、映画の時代的背景等について解説を行っていただきました。その後、映画を上映しました。

映画は、日本国憲法に、第14条「法の下での平等」と第24条「家庭生活における両性の平等」を草案し、一昨年亡くなられたベアテ・シロタ・ゴードンさんの功績と、それを受けて活動を進める日本の女性たち、変化する日本社会、そして今後を問うドキュメンタリー作品です。ご参加いただいた皆さんから、戦後女性史がよくわかるいい内容だったとたいへん好評をいただきました。

事務局長 河野賢司



UN Women 大阪

UN Women大阪では、2013年9月21日(土)に、クレオ大阪中央・セミナーホールにおいて、2013年度のチャリティイベント「国連ウィメン チャリティ交流会 ～女性のエンパワメントをめざすソーシャルパーティ～」を開催しました。

当日は、47名の方にご参加いただき、UN Womenの活動報告DVD『平等への道:ジェンダー予算』の上映後、ワールドカフェ形式にて感想や意見を交換しあいました。上映されたDVDはプレビュー公開ということもあり、女性のおかれている状況や、ジェンダー平等に関する課題をはじめ、日常生活の中で感じるジェンダー不平等など、各テーブルでそれぞれ話は盛り上がり、活発で熱気あふれる場となりました。



交流会の最後は、休憩時間などに入札いただいたチャリティオークションの結果発表で大いに盛り上

がりました。70品ちかくあった品物は、ほぼ競り落としていただき、一番人気のあった品物は、なんと12名もの方に入札いただきました。

DVDの上映後、その場で解説をきき、感想をいいあえる場は参加者の方から好評で、参加してよかったとの声をたくさんいただきました。UN Womenについても知っていただくことができ、広報・交流ともによい機会となりました。

事務局 邊見倫子

UN Women 堺

7月24日、第39回を迎えた「国際女性平和フォーラム」は、正会員である堺市女性団体協議会にUN Women堺が共催し堺市立女性センターで開催されました。

堺は、68年前の7月、第二次世界大戦で大空襲に見舞われ多くの尊い命が奪われました。初めに戦没者や世界中のあらゆる暴力や自然災害で亡くなられた方々への黙祷と献花をし、今年は、タンザニア連合共和国特命全権大使サロメ・タダウス・シジャンオ閣下を迎え、「女性の力の及ぶところはじめて平和の光あらん」をテーマに、堺市女性団体協議会山口典子委員長が基調対談、通訳は、UN Women堺の重松加代子代表が務めました。

タンザニアにおける女性の人権と女性たちのエンパワメントについて学習し、グローバルな視点でミレニアム開発目標達成のための課題などを平和の視点から考える機会となりました。

事務局 久保洋子



UN Women 多摩

現役世代が多い会員なので、忙しすぎて思うように計画が進められないのが悩みの一つですが、地域活動と連携しながら少しずつ国連ウィメンの名前を知ってもらうよう努力しています。

2013年は日本女性会議が徳島県阿南市で行われ、災害時の女性のリーダーの大切さについて討

論してきました。災害時に限らずあらゆる場面で、女性の参加の大切さを話させていただき、多くの方に私たちの活動を知っていただきました。

3月に有馬理事長におこしいただき、講演会を羽村市で開きましたが、大人数でしたので、質疑応答はできませんでした。また、当日スタッフとして参加していた会員は話が聞けなかった、また聞いてみたいという要望が多く、少ない人数で質問もしてみたいという声も聞かれ、理事長にお願いしましたところ、12月23日、再度ご講演をいただけることになりました。講演の後は、例年通り、クリスマス・コンサートを行いました。

2013年度は忙しく動き回った割には、大きな活動ができずに年末を迎えてしまいました。2014年度の予定はいろいろ上がっています。おおきなところでは、モンゴルへのスタディツアーが予定されています。2013年の初めに来日したニューライフウエイのリーダーから、活動の拠点になっているモンゴルキルト工房立ち上げ10周年のお祝いに、当初から支援していた会員たちが参加のお誘いを受けています。

事務局長 小川裕未

UN Women よこはま

◆5月31日、第5回アフリカ開発会議(TICAD V)の横浜開催(6月1日~3日)に関連し、パシフィコ横浜にて、横浜市、外務省など主催の「女性の活躍と経済成長」が開催され、よこはまの会員も多数参加しました。マラウイ共和国大統領の講演と林横浜市長もパネルディスカッションに参加され、アフリカの女性たちの目覚ましい活躍を目の当たりにしました。

◆6月15日、明治学院大学の一日社会貢献プログラム“1 day for others”の2年目、5人の学生さんが、ショップを訪れ、UN Womenの理論と実践を学ばれました。インターン生受け入れも3年目となり、地域の交流も広がっています。

◆9月17日、「UN Women よこはま セミナー2013」を開催、「UN Women よこはまのこれまでとこれから」と題して、これまでの活動を振り返り、将来を展望する報告と話し合いを行い、20年の活動の重みを実感しました。

◆10月、市内地域バザー参加で各所の地域交流を促進。

◆11月28日、恒例のチャリティコンサート、「斎藤龍ピアノトリオ」~クラシックからビートルズまで~は、若いアーティスト三人のフレッシュでエネルギッシュな演奏に魅了され、爽快感に浸りました。

事業部会長 牧野迪代



UN Women 東京

シネマ&トーク「映画で学ぶ開発途上国の女性たち」
2012年度、松本侑壬子氏(映画評論家/ジャーナリスト)をお迎えして、年3回のシリーズでシネマ&トーク形式で、“UN Women 東京”の活動を知っていただくための特色ある勉強会の一つとして、女性の視点からジェンダー問題を学習しようと公開学習会を開催しました。毎回楽しみに連続参加をしてくださった方々の希望もあって、2013年度も3回シリーズを重ねて、全6回を大好評のうちに完了しました。



第1回：イラン映画「オフサイド・ガールズ」〈どうして女はサッカー場に入れないの?〉。

第2回：ドイツ映画「らくだの涙」〈モンゴル・ゴビ砂漠の遊牧民一家の暮らし〉厳しい環境で共に生活するラクダとのふれあいが感動的。

第3回：セネガル映画「母たちの村」〈西アフリカの小さな村の少女に対する割礼の風習〉半世紀も前から問題視されていながら、未だ続けられている怖さを感じました。

第4回：インド映画「女盗賊プーラン」〈下層カーストに生まれ、差別に苦しみながら女性リーダーとなり力強く生きた女性の伝記〉。

第5回：ニュージーランド映画「クジラの島の少女」〈マオリ族の伝統と目に見えない女性差別と戦う少女〉。

第6回：米中合作映画「西洋鏡」〈映画の起源—シ

ネマトグラフを通して)松本先生の毎回の素晴らしい解説と講演に、様々な作品に描かれた女性の姿からジェンダー問題解決の難しさを感じました。

上原淳子

UN Women さくら

私たちは、正会員の一冊の会と手を取り合って東日本大震災の被災地に顔の見える支援を徹底し、真心溢れる物資を現地へ運び続けて2年8カ月が過ぎました。

6月3日、一冊の会と共催し、物資収集に汗を流し何回も心を尽くしてくださった、多くの人々に感謝を伝える会を目黒雅叙園で開催。全国から被災地はもとより、政界・財界・有識者にお集りいただきました。UN Women 理事国のレソト王国首相・外務大臣・開発企画大臣等が壇上で次々と皆さんを労ってくださいました。国連創設の理想である「平和・開発・人権」を、世界市民としてどれだけ推進できたかを思うと、皆さんの努力は「金の汗」です、と激励の賛辞をいただきました。

翌6月4日には、レソト王国タバネ首相閣下御一行を福島県・佐藤知事表敬訪問、午後には、相馬市被災地の視察にご案内しました。また、被災地の小学校にプロスパーポローニア(桐)の木を植樹。大槻会長が集った人々へ、UN Womenの使命についてお話をしました。

10月24日の国連デーでは、会員の漆戸啓氏(カズン)が作詞・作曲した、尊い絆を歌った素晴らしいテーマソング「はじめの一步」を、事務所でお披露目しました。

広報部



*国連ウィメン日本協会への名称変更に伴い、構成委員会も協力協定団体という呼称になり、それぞれ、国連ウィメン日本協会を冠した名称に変更されます。

事務局からの報告

■「第30回市川房枝女性の政治参画基金」助成金事業『世界の女性とUN Women (国連ウィメン)』日本語字幕付きDVDが完成

2012年度の上記助成金事業に応募し、30万円の助成金をいただく荣誉に浴し、UN Women等が制作したDVDに日本語字幕をつける事業を進めてきました。2013年8月、次の3作品を収録したDVDが完成いたしました。

『ハイチの女性・女兒に対する暴力：内なる敵』

30万人を越える死者を出し、150万人もの人々から家を奪った2010年1月のハイチ地震。女性や女兒は以前に増して暴力の標的にされている。自然災害や紛争が、ジェンダーに基づく暴力を誘発する危険をいかに増大させるかが描かれる。

『平等への道：ジェンダーに配慮した政策と予算』

ジェンダー予算は、ジェンダー課題を解決する政策を実施するための重要なツールである。ルワンダの事例では、ジェンダーに配慮した予算は女性だけでなく男性の利益にもなることが語られる。インド、モロッコ、ボリビア等の事例が報告される。

『手をたずさえて：女性・平和・安全保障』

紛争予防から平和構築のプロセスにジェンダーの視点を入れ、性的暴力から女性を保護し、加害者を処罰することは国連の最優先課題である。安保理決議1325号が紹介され、「保護」「防止」「エンパワーメント」の分野における様々な課題と活動が、国連やNGO関係者、紛争を生きのびた女性たちにより語られる。

■名称の変更に伴い郵便振替口座名および銀行口座名を、以下の通り改めました。口座番号はそれぞれ変更ありません。

郵便振替口座 名義 NPO法人国連ウィメン日本協会
番号 00240-7-43928

銀行振込口座

三菱東京UFJ銀行 戸塚支店 普通預金
名義 特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会寄付口
番号 1109343

■寄付者一覧(前回掲載以降2014.1.5現在)

宮澤知子 佐伯律子 宮下保子 伊藤千鶴子 石橋三洋 大西珠枝 織田由紀子 古橋源六郎 横田洋三 伊東みき 酒井興子 後藤安子 江尻美穂子 原ひろ子 國井秀子 岡島敦子 木山啓子 高橋克子 国際ソロプチミスト大阪門真 讚井暢子 酒井真喜子 上里町女性会議 ビューティショップK UN Womenよこはま UN Women多摩 (株)ソシア 碓谷真理 齊藤京子

■正会員団体18団体(2014.1.5現在)

〈団体〉(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 NPO法人参画プラネット 全国友の会 ソシエテ彩 UN Women堺 UN Womenさくら UN Women多摩 UN Women東京 UN Womenよこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会

〈企業〉イオン1%クラブ (株)高島屋 日本たばこ産業(株)

■正会員個人38名(2014.1.5現在)

阿部幸子

■賛助団体14団体(2014.1.5現在)

〈団体〉(公財)京都市女性協会 久留米市男女平等推進センター (一社)国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団 (一社)大学女性協会 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 浜松市男女共同参画推進センター 国際ゾンタ26地区 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団

〈企業〉(株)グッドバンカー (株)電通 (株)リコー

■賛助個人128名(前回掲載以降2014.1.5現在)

武川恵子 山田昌弘 濱口伸子 宮川昌江 古橋源六郎 北谷勝秀 北谷昭子 吉永明日香 後藤安子 王淑怡 小苺米葉子 針生峰子

<認定> NPO 法人国連ウィメン日本協会

旧称: UN Women日本国内委員会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL. FAX. 045-869-6787

・Email unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分



郵便振替番号 00240-7-43928 NPO 法人国連ウィメン日本協会